

押さえておきたい茶室設計のキーワード

茶道に使う道具や作法は多種多様。
すべての道具やしつらえには、ひとつひとつに大切な意味がある。

水屋



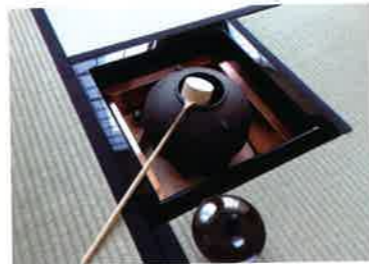
お点前（茶をたてる所作）に必要な茶道具を整える場所

床の間



掛け軸などの掛物や花入れを飾る。亭主の好みで広さや形式が異なることも

炉



畳の一部を切り床下に備え付けた囲炉裏

広さは4畳半が基本



窮屈でもなく、豪華に飾り立てる必要もなく、亭主と客のほどよい距離感を保てるという広さ

にじり口



茶室への客の出入り口。一人人がにじってようやく入れる小さな入り口

待合（まちあい）



茶事のために、露地など茶席の外で客が亭主の迎付（むかえつけ）や席入の合図を待つための場所

腰貼り



壁の剥落防止と、衣服と壁の両方を保護するために、腰の部分に美濃紙などの和紙を貼ること

つくばい



茶室に入る前に、客が手を清めるためにおかれた背の低い手水鉢に、まわりに役石（やくせき）をおいたもの

役釘



花入れや掛物、釜を吊るするための釘

プランニングはここに注目！

動線

作法にのっとった茶道口、客の出入り口、床の間との動線が最も大切。水屋からの動線にも十分に配慮したい。ヒアリングでは施主の道具を確認し、動作をシミュレーションしてもらおう。

使い勝手

茶室としてだけでなく、収納スペースを確保するなど、ふだんは暮らしの一部として日常になじむしつらえが理想。

流派

茶道の歴史は古く、表千家、裏千家のみならず、数多くの流派が存在する。

排水

本格的な水屋を設置する場合は、排水設備、配管などにも注意する。水屋の位置を最初に決めて仕様を検討する。

アドバイス

釘打ち1つも慎重に！ 堀さん

茶道の設計は釘の打ち方1つでクレームが出る世界です。花入れをかける役釘は、花入れの素材や飾る花により釘の種類が異なり、流派によっても取り付ける向きや位置もさまざま。しっかり確認しましょう。

流派に注意 檜尾さん

流派ごとに作法や茶室のしつらえも異なるので、案件ごとにしっかり確認しましょう。お施主様も判断に迷う場合は、先生に確認してもらいましょう。

趣味を活かしたリフォーム提案

茶室のある暮らしを提案する

日本の伝統文化である茶道は趣味の王道のひとつ。自宅でお稽古をしたい、教室を開きたい、おもてなししたい……茶室へのあこがれや要望も人それぞれ。ニーズを取り入れつつ、ふだんの暮らしで気軽に和の雰囲気を楽しめるリフォーム提案を、茶室プランニングのエキスパートお二人にうかがった。

「茶道のルールばかりに捉われるのではなく、敷居を低くし、茶室と生活スペースがシームレスな空間になることがポイントです。茶道で大切なのはお茶を通して友人や家族と心を通わせること。極端な話、茶の湯はテーブルでもゴザの上でも十分楽しむことができます」（堀代表）

本来、茶室は無くても支障がない贅沢な空間。しかし、工夫することで和の文化を楽しみながら、多用途で使いやすい家族にもよるこはれるくつろぎの茶室が実現可能だ。「本格的な茶室にこだわればコストもかさみます。将来教室を開きたいかなど、茶室をつくる目的はなにか、どこまでつくりこむかを最初に丁寧にヒアリングします」（檜尾さん）

コストに配慮しつつ、茶室ならではの意匠性を取り入れ雰囲気を楽しんだり、収納力や機能性を兼ね備えバランスよく日常生活になじむ茶室は、施主の満足度もアップする。茶室なんて、とあきらめているお客様にプロの視点で夢を実現させるプランを提案しよう。

気軽に茶の湯を楽しめる生活空間にとけ込む茶室

この方々に聞きました



リンクス・ホリ
●埼玉県大宮市
堀 政孝代表

茶道、石州流野村派第十三代家元。一級建築士事務所を主宰。茶室の設計デザイン・リフォーム施工からプロ向けに設計コンサルタント、茶道教室、茶道具開発など幅広い業務を運営。建築士兼茶道家ならではのプランが好評で全国各地から問い合わせがある。

ゆめや ●兵庫県神戸市
檜尾紀子さん

一級建築士。インテリアコーディネーター。2011年よりマンションリフォームの茶室のプランニングに携わる。制約の多いなかでも施主のニーズにこたえ、使いやすく日常生活にもなじむ「茶室のある暮らし」を提案。

紹介するのはこの5つのプラン

プラン1

手掛けたのは堀さん

客間としても使える多用途な和室

畳廊下を設け、6畳の茶室が襖を開けると広々8畳の客間に。様々な設計の工夫で快適さを備えた多用途な和室が完成。

プラン2

手掛けたのは堀さん

マンションの6畳和室をコンパクトな茶室に

水屋への動線の工夫や、アイデアいっぱいの床下収納で、使い勝手もよい4畳半のコンパクトな茶室に。

プラン3

手掛けたのは檜尾さん

暮らしにとけ込む収納力抜群の和室

本格的な水屋をそなえつつ、デッドスペースを活かした収納で、リビングにもなじむ和の空間が実現。

プラン4

手掛けたのは檜尾さん

バルコニーを利用したマンションの本格茶室

バルコニーから入れるにじり口を作成した。制約の多いマンションで本格的な和室を。

プラン5

手掛けたのは檜尾さん

造作家具で実現したお手頃茶室

収納を兼ねた畳ユニットや床の間、道具入れまで造作。コストを抑え機能的な茶室に。

プラン 2

マンションの6畳和室をコンパクトな茶室に



茶室内の床下収納

炬を作るため上げた床を活用し、畳1畳分の大容量の床下収納を設置。蓋の厚みは3センチほどあり、しっかりと荷重に耐える仕様に。使い勝手のよいように蓋は二分割。なるべく大容量にするため、床下には電動ではなく手動式の収納を提案することが多い。

電話台スペースを水屋に

リビングの電話台があった場所に水屋を。茶道口となりで動線もスムーズで使い勝手も申し分ない。お稽古時以外はケンドン式の扉で内部を隠すことができる。インターホンをはさんだ上部の棚も収納。



マンションの6畳和室を4畳半の茶室にリフォーム。茶道のお稽古ができ収納力のある茶室が欲しいとの要望だった。リビングからスムーズに茶室にアプローチできるような動線にも工夫。茶室内に床下収納、リビングに使い勝手のよい水屋を設置。床の間もシンプルかつコンパクトに設計することで室内を広く見せることができる。



床の間に板間スペースを

半端なスペースを有効活用し床の間の窓側に板間を設けた。ゆったりした雰囲気と空間のバランスも良くなる。手荷物などもおけるスペースにも。



技アリ 茶室

スペースを有効活用し、収納や仕掛けをつくり、アイデア次第で多用途に対応できる茶室が実現する。



押し入れ床下収納

炬を作る関係で茶室の床を上げたためにできた、押し入れ下部のスペースも床下収納として活用。

床の間の裏側に障子や葦戸を収納

夏の葦戸（簾をはめこんだ建具）や冬の障子戸を収納できるように、床の間の裏に薄い収納スペースを設ける。



プラン 1

8畳の客間としても使える多用途な茶室



この事例は、元々洋室だった部屋を客間を兼ねた茶室にしたいとの要望だった。

茶室として使う際は襖を閉め6畳の和室に、客間として使う際は襖を開け、できるだけ広い8畳間として使えるように設計した。

天井内に納めたエアコンや、庭に面した明るい水屋、大きさ・位置に配慮した障子のデザインで、落ち着いた雰囲気を使い勝手のよい茶室が完成した。



襖2枚が
締めた状態

襖2枚を開けると…



使い勝手のよい畳廊下。襖をはずすと8畳の客間に。



堀さんアドバイス

生産性の高い茶室を提案する

茶室はテレビも置けない非効率な空間。友人をもてなしたい、お茶を子供に教えたい、など日常的にも具体的に利用できるような提案でなければ、茶室が欲しくてもなかなか踏み込んで「茶室をつくらう」とはなりません。二次的に使える、生産性の高い茶室提案をプロの目線で心がけることでお施主様にも心から満足して頂けます。

庭に面した明るい水屋



庭に面した廊下のつきあたりに水屋を設置。腰板を貼り、水はねをおさえるすのこを敷き、銅板流しを使用した本格的な水屋。

エアコン口はすっきりと



茶室のエアコンは廊下の天井内に納め、室内には木製の吹き出し口のみが見えるすっきりとしたものに。エアコンは襖を開放した広さでも十分まかなえる大容量タイプ。

開閉可能な欄間障子



通風のため、庭に面した欄間障子を上開き式で開閉できるように。鴨居と障子の間に竹を使って固定することで、多少の風では外れないようになっている。